

～作り出す楽しさを体感してほしい～

つい先日新年を迎えたばかりとっていたら、もう四月です。2010年の秋からガーナに移り住んでいる私は今年の四月で8回春を体感していません。しかしながらツイッターやインスタグラムで満開の桜や菜の花につくしの写真を見る度に遠い懐かしい春の記憶がよみがえってきました。私が勤めていた学童保育所の庭や駐車場は隣が竹林だったこともありその恩恵を受けて春になるとたけのこが現れます。それを子どもたちと収穫するのが春の恒例行事でした。学童保育所時代の思い出はこうした季節の取り組みはもちろんのこと、子どもたちとやったたくさんの工作も思い出となり、今に活かされています。ペットボトルやフィルムケース、トイレットペーパーの芯、紙コップ、プラ板その他いろいろとたくさんの工作をおこないました。とても嬉しいことに現在活動しているアフィフェ村での授業の様子を先ほどの媒体で紹介すると(子どもたちの笑顔がすごくいい)とお声をいただきます。本当にこうしたお言葉をうれしく思うのです。ひとつだけ補足して説明するのであるなら、(ガーナの子どもであっても日本の子どもであってもすごくいい笑顔)であるということです。どうしても(日本の子どもの目に輝きを感じない)であるとか(日本の子どもよりいい笑顔)と言われることに違和感があります。私がガーナ移住を決心したのもこの(体感する)ことをガーナの子どもたちにももっともっと体験してほしいという想いがあったのでした。2010年1月に2週間のガーナ滞在中で北部タマレの学校で感じたことでした。学童保育所に通っている子どもたちが体験している楽しい工作手芸をこのガーナの子どもたちにも体験してほしい。作り出す楽しさを体験してほしい。自分が見ている学童保育所の子どもたちの笑顔を思い浮かべ感じたことでした。その想いは現在でも持ち続けています。材料集めや準備するのは自分一人でやらないといけない大変さがありますが、それでも(あっ、次の授業はあれを作ろう)とアイデアがワクワクしながら湧いてくるのです。日本の四季に応じた工作も取り入れ、その時にちゃんと日本の文化であることを伝えるのだけど次の機会には忘れてしまう子どもたちだけれど、それでも作り出す時の笑顔はとっってもよく最高なのです。作り出す楽しさをもっともっと体感してほしい。さて来月は五月。五月といえば・・・そう考えるだけでワクワクしてきます。これも私の作り出す体感なのです。



2018年4月7日 ガーナ挨拶 No15 スプートニクガーナ 国分敏子